

## 第3期リニューアルにかかる意見等について

意見・質問・提案等	回答・対応等
<p><b>【1 A展示室】</b></p> <p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見て触れて体験するというコンセプトは興味がわく 博物館員と交流できるコーナーは、そこで得た意見やアイデアを展示などに反映してほしい</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バックヤードの占有個所活用は何でしょうか</li> <li>・2-3 の「地域の方々による展示」の選定と展示サイクルはいかに予定されますか</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2 琵琶湖と生き物のものがたり（中央部） 過去の琵琶湖と生き物の姿の紹介映像に加えて、琵琶湖博物館についてや、各コーナーの見どころを映像で紹介してはいかがでしょうか。ちょっと裏話を入れてもおもしろいと思います。 はじめえてこられた方には、全体が見えた方が見学しやすく、時間のない方には時間配分がしやすい。</li> </ul> <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マチカネワニの実物大生体復元模型の企画は大賛成です。これを見たい人は多いと思います。</li> </ul>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・展示室等でいただいた意見は、当館のコンセプト等を踏まえ、可能な範囲で展示への反映に努めます。</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バックヤードは、展示メンテナンスの用品、「地域の人々による展示」の次回展示準備やその標本等の一時保管のために使用します。</li> <li>・これまでは、一緒に展示会や観察会を行ってきた団体と協議して選定していました。リニューアル後も、当面はその運営を引き続き行い、将来的には、展示を募集することを検討しています。展示サイクルは、おおむね半年ごとを想定しています。</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めての方への案内映像は、必要だと考えており、博物館の入口付近の大きなモニターで紹介したいと考えています。A展示室では、できるだけ400万年の長い琵琶湖の歴史が伝わるように努めます。</li> </ul> <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リアルに復元できるよう努めます。</li> </ul>

## 【2 B展示室】

(1 1)

- ・滋賀に龍の伝説があるとのことだが、他の府県にある伝説と違いはあるのか。
- ・マツタケのにおいは本当にするのか

(1 2)

- ・【2 森ゾーン】 右奥の「発掘作業なりきり」袋路となり導線上、不便かと? (洞窟表現?)
- ・【2-3 森をつくる】 右の仕切りの活用は? 特になければ導線上、障害では?

(1 3)

- ・貝塚 小中学校で習うのでわかりやすいパネル展示 **(があればよい)** →化石と同じフロアだとよりわかりやすいように感じます。
- ・フナ、コイの違いを立体パズルで体感 **(体感できるパズルがあればよい)**  
フナのスケッチ→フナのうろこ模様のプロッタージュ →バッグの製作など
- ・魚の目の付き方を体験できるもの **(ディスカバリールームのザリガニ模型のようなものがあればよい)**
- ・フナ寿司の歴史や作り方、人々との暮らしとの関わり(県外の方はフナ寿司への関心がある) **(の解説パネルがあればよい)**

(1 4)

- ・縄文の森の原寸大ジオラマ、ですが、添付された図を拝見する限りでは、今ひとつインパクトがありません。意図はわかりますが、他のコーナーとの関連を把握しにくいのではないのでしょうか。いまひとつ工夫が必要だと思います。

(1 5)

- ・「ICT 活用」について ICT の活用とありますが、どのようなものを使い、どのように活用するのでしょうか?  
例えば、以前京都府立植物園で、自らのスマホを使用し、植物の解説を見る(聴く)というのを経験したところ、充電が切れて困ったことがあります。機器を貸し出ししてく

(1 1)

- ・近江の自然環境に応じた特徴的な龍の伝説や儀礼があったことを文献史料・民俗資料から確認しています。
- ・においの展示は、第1期リニューアルで導入しており、第3期においてもリアルなにおいの制作に取り組みます。

(1 2)

- ・フォトスポットとして立ち寄るコーナーとなります。
- ・スロープの手すりとなります。

(1 3)

- ・分かりやすいパネルの制作に努めます。
- ・実施設計の検討において、当初計画を見直し、当展示はしないことになりました。
- ・実施設計の検討において、当初計画を見直し、当展示はしないことになりました。
- ・実施設計の検討において、当初計画を見直し、当展示はしないことになりました。

(1 4)

- ・壁面に原寸大の森の写真を貼るなど、より臨場感あふれる展示とします。

(1 5)

- ・現在、ICT技術を活用した体験展示を検討しています。アプリがインストール済みのタブレット端末を配置し、どなたでも無料で使え、個人のスマホにアプリをダウンロードしてご覧いただくことも可能にすることで考えています。

ださるならば、有料でしょうか？

また、高齢者・障害のある方もどなたでも有効に使えますか？

・「殺生をめぐる葛藤」 大変興味をそそる内容で、楽しみです。  
ただ、現在自らの手でいきもの（自然）の命を奪い、自らの命を維持するという生活を送っていない人がほとんどです。自分の生活と離れてしまった自然とを結びつけるとても有意義な展示となると期待しています。

その距離を補うためにも、体験活動の企画などが豊富にあれば嬉しいです。

・「殺生をめぐる葛藤」 現在、滋賀県内でも幼稚園・小学校等の統廃合が進み、高齢者問題を抱え、自治体のサービス向上と経費削減のため、バス路線が減り、人を中央に集めていく政策が取られつつあります。

現状としてますます物理的にも精神的にも遠くなっていく森林・里山の問題を、自らの問題として捉えていくのは、大変難しいと思います。この展示が、懐古の場所にならず、未来に繋がっていくためにも、なるべく滋賀県の実際の場所の昔と今をより具体的に展示することで、滋賀県民だけでなく、来館者もより身近な問題と捉えられると思います。

（例えば、湖から遠い甲賀の森林・里山の場合、湖に近い大津の森林・里山の場合という具体的な地名と自然と現状・その問題を紹介することで、子供達も親しみを持ち、関心を持ってくれるのでは？）

私ごとですが、自然観察と木育を進めている立場から、ぜひ欲しかった展示なので、大変期待しています

(16)

・導入部の「竜」のイメージは必要か。やや唐突な感がありはしないか。

(17)

・森ゾーンのイメージが、人工的な本来の自然の「森」、即ち人間の意志から独立した「森」をイメージさせることで、人間が自然の森を人間の森へと改変していく営みを示す方がよいと考えるが…

限られたスペースでそれを表現することは難しいと思いますが。

・実施設計の検討において、当初計画を見直し、当展示はしないことになりました。

・森ゾーンでのジオラマは、実際の場所に即した展示となる計画です。

(16)

・自然の側からも人間の活動を捉えるという全体のコンセプトから必要なものとしています。「なぜ」という唐突感が、興味を持ってもらうきっかけになると考えています。

(17)

・2-1「森に暮らす」の縄文の森のコーナーは、そのような意図に基づくものです。壁面に縄文の森の背景画も示すことにより表現したいと考えています。

### 【3 その他・共通】

(21)

- ・最近VR(バーチャル・リアリティ)体験が盛んになっているが、こうした体験のできる展示コーナーを設けてほしい

(A・B展示室で)

(22)

- ・基本計画資料編が具体的な実施設計図面となり、改めて各ブースの展示物を説明してほしい。
- ・聴覚障害、視覚障害、肢体障害の方々への対応・整備はありますか？(音声ガイドや展示表示等)

- ・触れる・体感できるものはありますか

- ・無料配布資料の設置することについて(各コーナーで是非知ってほしいことなどをチラシ・説明文で補足)

- ・床材は何ですか？

(23)

- ・フォトスポット・・・家族連れの方たちが楽しんでおられました。(林業体験、研究者の体験のコスプレなどを楽しんでおられたので、そういったものを置いてほしい)

- ・お土産ショップ・・・地元の企業とのコラボ商品  
たねや(クラブハリエ)さんの琵琶湖博物館限定ナマズバウム((パッケージがナマズなど)商品など

- ・おすすめガイドブック(世代別)・・・家族連れ、大人向けなどのガイドがあるとありがたいです。特に子連れはここを中心に回りやすいものがあると嬉しいです。コンシェルジュ的な人がアドバイスしてくれるブースがあるとよいと思います。

(21)

- ICT技術を活用した体験展示を導入することで検討を進めています。

(22)

- ・〈説明の実施〉
- ・設計と施工段階のUD評価でご意見をいただいております、音声ガイド、触れる展示、見やすい配置など可能な範囲で対応しております。
- ・いくつかのコーナーで、触れたり、においなどの体感展示を設けます。

- ・各コーナーの見どころ等は、展示交流員、質問コーナー、びわ博ナビ等で紹介いたします。

- ・床材の大半は、タイルカーペットとなります。

(23)

- ・B展示室で、フォトスポットを設けます。(エビタツベ漁・地曳網のロクロ・縄文時代の伐採・宮座・貝塚の発掘・丸子船)

- ・当館ショップにおいて、地元の企業とコラボして、琵琶湖の淡水魚をテーマに高島帆布を使ったポーチ、トートバッグ、ペンケースを作ってください予定です。

- ・グランドオープン後に総合ガイド(有償頒布)を編集する予定としております。なお、外国の方向けには英語版・中国語版のガイド(16ページ)を作っており、英語のウェブページからダウンロードできるようにしています。この日本語版の作成は検討中です。

・琵琶湖の深さと生き物の関係(深さの違いによる生態の種類) (がわかるパネル展示があればよい)

深さを自分の体との比較で示す

・ナマズと琵琶湖の関わり (がわかるような解説パネルがあればよい)

・砂水流しの模型(体験) (があればよく理解ができる) ⇒ 川から琵琶湖への流れ(小5で習います)

(C展示室にあるようなもの?)

・水深によって生き物の住む場所が決まっていないのが、琵琶湖の特徴となっております。

琵琶湖の魚のほとんどは季節によって深い場所と浅い場所を行ったりきたりします。

例えば、C展示室の「琵琶湖へ出かけよう」にある水深別の映像では、水深90mの湖底にホンモロコいる様子が映っています。また、イサザのように昼間は水深60—100mの湖底で生活しながら夜になると水面近くまで浮き上がる魚や、ビワマスのように夏の間は水温が低くなる水深20m以深に住む魚などもいます。

当館の展示では、このような生活場所の面白さをそれぞれの魚の展示のところで解説しています。

これらの理由から、当館では水深別の生き物の分布をひとまとめにしたパネル展示は行っておりません。

・ナマズについては、水族展示室のトンネル水槽(それぞれの魚の魚名板)、ビワコオオナマズの水槽、川魚屋の隣の「田んぼとなまズ」の水槽の3箇所で開催しています。ビワコオオナマズの水槽では、水槽裏の通路でオオナマズの生活に関する展示や湖岸での産卵のビデオなどで解説を行っています。また、C展示室の「田んぼ」のコーナーでは田んぼで卵を産む様子をビデオで紹介しています。

・「川のはたらき」で、土砂の運搬や流れの強さによって堆積環境が変わり、土地の姿が変わることなどを学ぶ内容については、C展示室の「川から森へ」で展示しています。

「川から森へ」の展示内容は5年生で習った「川のはたらき」を前提にすると理解できるようになっています(洪水がおこると困るが、洪水が全くなくても困る、など)。

(24)

・来年の短期的計画も予算も決まったこの時期に開催される協議会での提案は、いつどのようにして、どこで活かされるのでしょうか？  
時期をもう少し早めていただくのは難しいでしょうか？

(※ 斜体太字部分については、担当の方で加筆しています)

(24)

・今回いただいたご意見について、できる限り展示設計の中で活かせるように、進めてまいります。  
・博物館協議会につきましては、博物館の事業についてご審議いただくにあたり、博物館の年度の間中期、およびその年の事業が終了する時期に開催をしております。今回は、委員の皆様からのご意見を実施設計に活かすため、事前に文書で照会させていただきました。今後は、開催時期につきましても、議題に合わせて検討をしていきたいと考えます。